

N-netへの道（室戸編）

南海トラフ海底地震津波観測網整備推進本部 ※

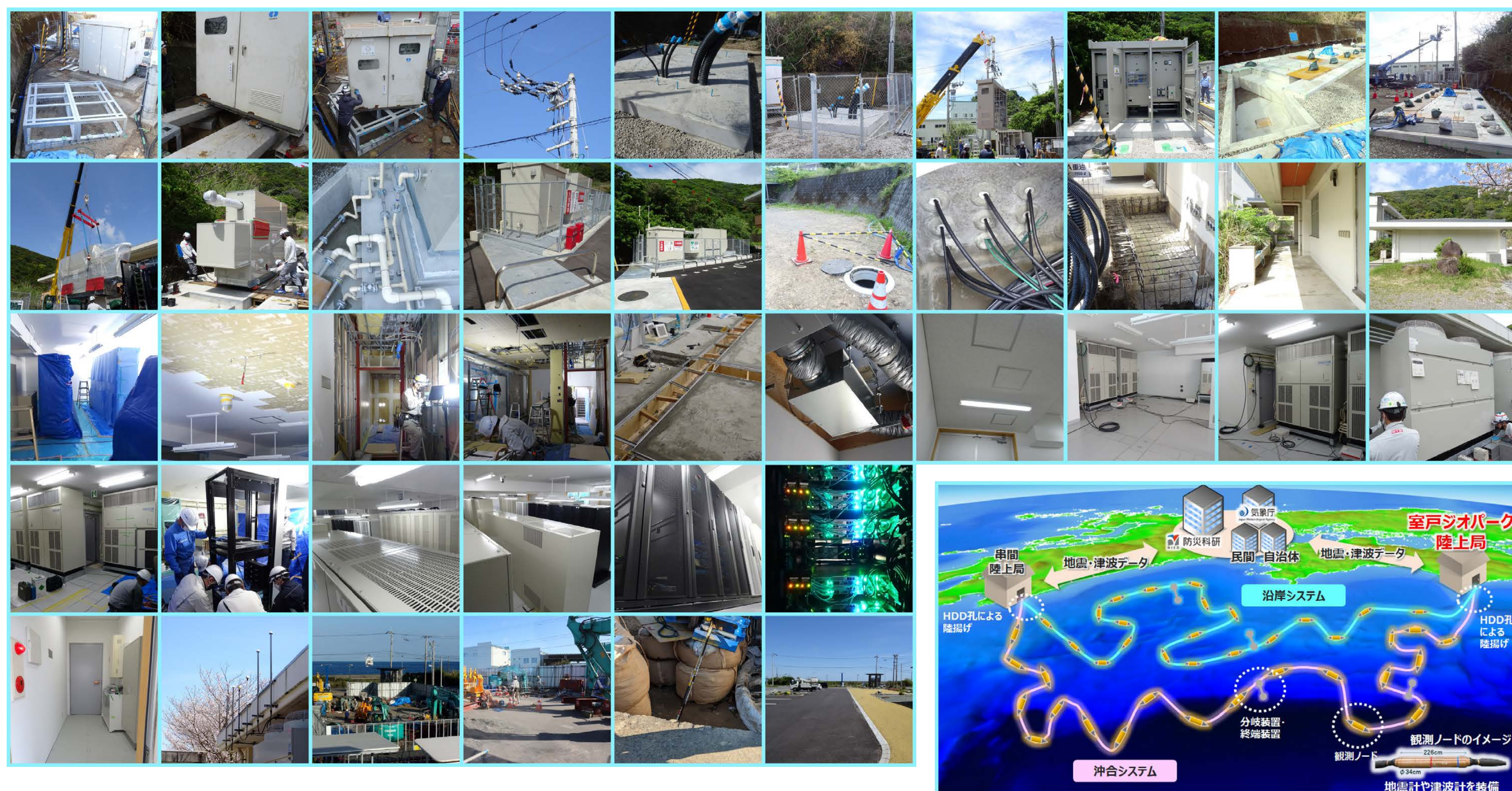
Point

- 観測の空白域に地震津波観測網を整備
- 光海底ケーブルを利用した海底地震津波観測網
- DONET2と陸上局を共用化

概要

南海トラフ地震の想定震源域のうち西側の海域（高知県沖～日向灘）は、地震津波観測の空白域になっている。この観測の空白を埋めるべく、N-net（南海トラフ海底地震津波観測網）の整備を行っている。海底観測点を光海底ケーブルで結ぶN-netは、海域で発生する地震やそれに伴う津波をその発生現場でとらえることができるため、当該エリアの地震・津波の早期検知を実現するものとして期待されている。

N-netには2つの陸上局があり、その一つが高知県室戸市で整備を進めてきたN-net室戸陸上局である。室戸世界ジオパークセンター内に既設の地震津波観測網DONET2の陸上局舎があり、この局舎を共用化して、N-net室戸陸上局として利用することを目指した。その整備は、DONET2の運用を維持しながら局舎共用化の工事を行うという、一筋縄ではいかないものであった。



N-net室戸陸上局の整備

今後の展望・方向性

室戸陸上局は、N-net/DONET2の共用設備としての整備が進められ、2024年度中にN-net沿岸システムが整備されることで共用化のための工事が完了となる。

N-net/DONET2を同時に運用しながら、最適と考えられる両観測網の運用方法、共用設備としての室戸陸上局の維持方法を見いだして行く。（文責：望月将志）

※ 南海トラフ海底地震津波観測網整備推進本部のメンバーリストは防災科研HPで確認下さい。

